

# 発表する・プレゼンテーションする

個人

グループ

学級全体

発表原稿

図表, 写真

指示棒

など

自分の集めた情報を目的に合わせて取り出し、再構成して他者に伝えることは、とても大切なことです。

## 利 点

一人一人の考えが明らかになります。

- ・自分の考えが確かになります。
- ・友達の考えをきくことにより、自分とは違った考え方に気付くことができます。

そのため、課題が一層はつきりしたり、新たな課題が生まれたりします。

他者にきいてもらうことで、自分のよい点や改善点に気付き、自信を深めたり次の探究活動の意欲を高めたりすることができます。

## 手 順

- 1 目的（何のために伝えるのか）・対象（誰に伝えるのか）を意識し、それらに応じて、内容、表現方法、情報量、構成などを工夫します。
- 2 発表原稿を書きます。
- 3 資料を準備します。（ポスターにかく、プレゼンテーション・ソフトを使う、実物を見せるなど）
- 4 発表の練習をします。

## 発表原稿を書くときのポイント

### ◇原稿の構成(例)◇

- 1 自分の考え
- 2 理由・根拠
- 3 例

具体的な数字  
自分の経験  
本などの知識

- 4 自分の考え

読み原稿には、大きな字で、1行10文字程度、行間を開けて書くとよいです。また、音読記号などを使って間を開けるところ、強調するところなどがわかるようにしておくとよいです。

- 相手意識（だれに）  
目的意識(何を)をもつ
- 一文を短く
- わかりやすい言葉を使う
- 敬体「…です。」「…ます。」を使う
- 主語と述語を離さない
- 接続詞をうまく使う
- 5W1Hを意識する  
いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように
- 数を言う  
↓  
見出しを言う  
↓  
一つずつ詳しく説明する

(例) 良いところは三つあります。  
おいしい、安い、早いという三つです。  
おいしいというのは・・・

## 発表するときのポイント（中学年用）

### 学習指導要領 第1学年及び第2学年 〔A 話すこと・聞くこと〕

- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。

### 学習指導要領 第3学年及び第4学年 〔A 話すこと・聞くこと〕

- イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。

- 姿勢よく
- 立つ場所を考えて
- 大きく口を開けて
- 大きな声で、はっきりと
- わかりやすい速さで
- 笑顔で 相手を見て
- 大事な言葉を強調して
- 抑揚をつけて
- 声の調子を変えて
- 実物を見せたり、ポイントをさしたりして

## 発表するときのポイント（高学年用）

### 学習指導要領 第3学年及び第4学年 〔A 話すこと・聞くこと〕

- イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。

### 学習指導要領 第5学年及び第6学年 〔A 話すこと・聞くこと〕

- イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉づかいで話すこと。
- ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語を話すこと。

- 立つ場所を考えて
- 大きな声で、はっきりと
- 1分間に300字程度の速さで
- 間をとる
- 笑顔で 相手を見て
- 共通語を使って
- 大事な言葉を強調して
- ポイントをさしながら
- 身ぶりをいれながら
- 「問いかけ」「呼びかけ」を使って

### 中学校学習指導要領 第1学年 〔A 話すこと・聞くこと〕

- イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。
- ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。